

薬は病院や診療所で処方・提供されてきました。しかし今、医療機関では処方せんの発行のみを行い、薬の調剤・提供は街の調剤薬局で行う「医療分業」が国によって急速に推進されています。調剤薬局とは、処方せんを持つ患者さんに薬を調剤して提供する「保険薬局」のことを指し、市販の薬を扱う薬局やドラッグストアとは異なります。

保険医療機関が処方せんを発行し、薬の調剤は保険調剤薬局が行う、という医薬分業が進んでいます。

病院の処方箋を処方して患者に薬を渡す病院の外の薬局を調剤薬局といいます。調剤事務は、調剤薬局で受付や会計業務、薬剤師の調剤補助を行う仕事です。

また調剤報酬請求事務専門士には、専門知識だけではなく保険や薬剤の基礎知識をもち、患者を接遇することも求められるため、薬局や薬店、ドラッグストアなどの受付やフロアでの活躍も期待されています。

調剤事務管理士は、調剤薬局において保険の確認や調剤報酬請求明細書（レセプト）の作成など、薬局収入の根幹を担う調剤報酬請求のスペシャリストです。多忙な薬剤師をサポートし、受付や会計も行うなど、まさに調剤薬局の「顔」とも言うべき存在です。

調剤報酬の仕組みを理解し、正確に調剤報酬を算定し請求できる事務スタッフは、薬局運営のサポート役として、欠かせない存在です。

「医薬分業」の推進によって調剤薬局ではレセプトの作成業務と発行枚数が急増しており、薬局の数も増えていることから、調剤事務管理士へのニーズと期待はますます高くなっています。調剤報酬や医療保険制度、薬に関する知識はもちろん、薬剤師をサポートする細やかな配慮と患者さんに対する接遇が求められ、女性が多く活躍している仕事です。

迅速に、正確に細かい計算ができる事務能力と注意力が必要です。保険の種類もさまざまあり、法改正にも対応しなければなりません。患者との対話も多いため、明るく人あたりのよいタイプに向いています。